

小学4年2組 体育科学習指導案

指導者 小 草 康 弘

ボールをつかった運動の特性を生かした動きの中で、その運動の局面をしぼり、子どもたちの視点を焦点化しやすくしながら、お互いの動きを見合う場面を設け、アドバイスし合うことは、投球動作や捕球動作の動きを身につけるのに有効であったか

単元名 ボールランドのポイントゲッターになろう -ゲーム-

2 授業の構想

(1)

今日はすごいことがおきました。バトンパスの時に B くんが二人ぬきをしました。どうやら、バトンパスのタイミングがばっちりあったようです。けど、私が C ちゃんにパスしようと思ったらずいはずれてしまってぬかされてしまいました。そこはすごく申しわけない気持ちでいっぱいです。でも、その後、みんな (B コーチ!?) のおかげで、私が必要なコツもわかりました。なので B コーチの作せんではやくなりました。ありがとう! B くん! (児童 A)

上記は4年生リレー単元でのふりかえりである。本学級の児童は、リードする有効性を感じながらも、バトンがうまく受け渡しできないことを課題としていた。そこで、どのようにバトンを渡したり、もらったりするとうまくバトンパスができるのか考え、試行していった。そこで、全体から出てきたものは、「手の平のむき(親指を下にむける)」「手の高さ」であった。「手の高さ」については、全員がそのよさを感じることができたが、「手の平の向き」については、バトンをうまく握れないという意見もあった。しかし、子どもたちは、リード時の走りやすさ(走れる速さ)が大きく違うことから、練習をして、「手の平の向き(親指が下)」ができるようになりたいという気持ちになった。バトンパスの際に、児童 A は、バトンを落としてしまったり、うまくつかめなかったりしていたが、チームの仲間にバトンパスを見られることで、少しずつ自分の課題がわかり、その課題を意識して練習していくことができた。その結果、チームの得点も上がり、努力をしてできるようになったことや、仲間が支えてくれたことに喜びを感じていた。

本学級の子どもたちは、附属小学校で行っている「運動カルテ」のソフトボール投げにおいて、平均すると男子が20m、女子が12mであった。全国平均と比べると少し低い記録である。その中でも10mにも満たない児童が男子2名、女子7名と、学級のおよそ3分の1の子がいるという現状である。また、3年生の始めの頃の記録と比べると、クラブ等の経験により、大きく記録を伸ばしている子もいるが、ほとんど変化のない子が多い。休み時間の姿を見ると、男女ともなかよくドッジボールをしている姿があるが、投力のある児童がボールを投げ合い、その他の児童は当たらないように逃げ回っている。ボールをもらったとしても、近くの子にパスをする程度である。このままでは、高学年期になっても投球動作が身につかず、このまま経験がなければ、のびる時期が出現しないままになってしまう可能性もあるため、本単元の果たす役割は大きいと考える。

(2)そこで、本単元では、「ボールを遠くへ投げる」「狙ったところにボールを投げる」「ボールを捕る」「ボールを打つ」といった、ボールを操作する技能(主に手での操作)を高めることをねらいとしている。ボールを遠くへ投げたり、打って遠くに飛ばしたりするためには、体の捻転が必要である。この動作は、走や跳の動作と比べて身につけにくい。そこで、ボールを操作する場面をゲーム化したり、動作の視点を焦点化したりしていくことで、運動のこつを意識しながら、動作に慣れていくことができると考える。

低学年期においては、遊びの中でボールを使ったり、類似した動きをしたりしながら、感覚を磨いてきている。これをもとに、中学年期にボールの投球動作、捕球動作の仕方がわかり、できるようになっていくことで、高学年期におけるボール運動の技能や思考力、判断力、表現力の向上につながる。たと

えば、ボールを持たない動きに目を向けたり、自分たちの考えた作戦のよさを実感しながら学習したりしていくことができる。このように子どもたちは、確実な力を身につけることにより、新たな気づきが生まれ、学習をさらに深めていこうとすることができると思う。

本単元のねらいを達成するために、子どもたちの実態をもとにこつを共有化し、互いにかかわり合うことで、課題が明確になり、技能を高めていけるように授業を構想していく。「できる」喜びを感じることで、学習意欲がわき、次の「やってみたい」につなげていきたい。

(3)そこで、本単元では、次のような視点に重点をおき、学習を展開していく。

①身につけたいボール操作の運動感覚を意識し、ゲーム化をすることで、楽しみながら意欲を高め、もっと得点をたくさん取るための方法を考えようとする場面を用意する。

ボールを操作する技能を高めていくために次の3つの場面を用意することとした。

- | |
|--|
| <p>○スパッ：パスされたボールをキャッチして、狙ったところへシュートをする。 相手が捕りやすいパスをする ボールを持った瞬間に次の動作へ移る 狙ったところへ力を調整しながらボールを投げる</p> <p>○ビューン：ドッジボールをできるだけ遠くへ投げ、仲間がキャッチをする。 全身の力をボールに伝えながら投げる 落下地点を予測しながら移動してボールを捕る</p> <p>○カキーン：止まっているボールを打って遠くへ飛ばす。 用具を操作してその力をボールに伝える</p> |
|--|

上記の運動には、互いに共通している運動局面があるものや、他の型に属する運動の局面と共通しているものがある。互いに共通している運動局面には、ビューンやカキーンにおいて遠くへ投げたり、打ったりするための、「体を半身にする（腰の捻転が生まれる）」「肘と肩を後方に引く」「足をふみだす」など、共通した動きがある。

また、他の型に属する運動の局面においては、力を調整しながらバスケットボールを狙ったところへ投げるために、両手で投げ上げる動きがある。これは、バスケットボールの動きだけでなく、バレーボールの一部の局面にも類似している。キャッチする場面においても、その運動の状況によって取り方が変わってくるが、類似している局面がある。このように、動きを局面ごとに細分化してみると、今回設定した、3つのゲーム場面の中には、複数の技能が含まれている。これらの技能が身につくことで高学年でのボール型の運動へとつながっていく。このような場面での運動の成果を得点化することで楽しみながら学べるようにしていき、ボール操作における多くの感覚を身につけられるようにしていきたい。

②互いの動きを見合いながらこつに気がつくことができるように、視点を焦点化する。

リレーの単元では、「手の平」がそうであったように、視点を焦点化し、動きを見ることのよさを感じさせたい。動作の全体をぼんやりと見るのではなく、発達段階に応じて、運動に必要な部分に目を向け、こつとなるポイントに気づいていけるようにしていく。

一瞬の動きの中で、ボールを操作するのに必要な動作を見逃さないためにも、子どもたちの視点を焦点化することができるように印（ゲッターマーク）をつける。チームの中で、得点をたくさん取ることができる子は、どのような動作をしているのかを見つけながら、全体でみつけたこつを共有化していく。そのこつをもとに動きを見合いながら、それぞれの課題をみつけ、解決していくことができるようにアドバイスし合い、試そうとする姿を期待したい。アドバイスをしようとする事により、こつを意識しながら一人ひとりの動きに目を向け、自分の動きや理想の動きと比べながらイメージをすり合わせていくことができる。それにより、動きのよさを感じ、思考をさらに深めていくことができるようになる。したがって、教師はアドバイスする姿やこつをみつけようとする姿を認め、子どもが動きのよさを明確にしていくことができるように価値づけたり、より具体的になるように考えを掘り下げたりしていくことで、アドバイスをすることや、こつをみつけようとする思考を深めていくこと、こつをもとに運動をしようとする判断することのよさを感じられるようはたらきかけたい。

3 展開計画（全7時間 本時5時間目）

| 次 | 主な学習 | 時 | 具体的な学習・内容（◇印は、学級全体の学び合いの場面） |
|---|--|-----------------------|---|
| 1 | 附小ボールランドでたくさん点を取ろう。 | 1 | ・ボールランド3つのコーナーを経験し、始めの得点を知るとともに、自分のよかったところや困ったところ、仲間のよかったところを見つける。 |
| 2 | たくさん点を取る方法をみつけよう。 ・スパッ（バスケット）の点の取り方をみつけよう。 ・スパッで点を取るためのキャッチの仕方を考えよう。 ・カキーン（バッティング）で遠くへ飛ばそう ・ビューン（ボール投げ）の点の取り方をみつけよう。 ・ビューンで点を取るためのキャッチの仕方を考えよう。 | 2 3 4 ⑤ 6 | ◇よかったところや困ったところをもとに、多く得点している子の動きからコツをみつけ、動きを見合いながら、課題をみつけ、アドバイスをする。 ・たくさん点を取るためのシュートの打ち方をみつける。 ・飛んできたボールや次の動きにつなげるためのキャッチの仕方をみつける。 ・ボールを打って遠くに飛ばす方法をみつける。 ・ボールを遠くに投げる方法をみつける。 ・ボールを落とさないためのキャッチの仕方をみつける。 |
| 3 | 附小ボールランドチャンピオン | 7 | これまでの学習を生かしながら、アドバイスをし合い、記録をのばす。 |

4 「学び合い」による思考力・判断力・表現力の評価

| 次 | 時 | 学習内容 | 学習活動における具体的な評価規準 | 評価資料 | 評価基準 | | |
|---|--------|----------------------------|--|-------------|---|---|--------------------------------------|
| | | | | | A | B | C |
| 2 | 2 | ◇たくさん点を取るためのシュートの打ち方をみつける。 | 点を取るためのシュートの打ち方について、コツを見つけ、アドバイスをしようとしている。 | 体育ノート 発言 | シュートを打つための手や足の動かし方がわかり、相手の課題にあったアドバイスをしている。 | シュートを打つための手や足の動かし方はわかるが、相手の課題にあったアドバイスをしていない。 | シュートを打つための手や足の動かし方がわからず、アドバイスをしていない。 |
| | 3 6 | ◇たくさん点を取るための、キャッチの仕方をみつける。 | 点を取るためのキャッチの仕方について、コツを見つけ、アドバイスをしようとしている。 | 体育ノート 発言 | キャッチするための手の動かし方がわかり、相手の課題にあったアドバイスをしている。 | キャッチするための手の形はわかるが、相手の課題にあったアドバイスをしていない。 | キャッチするための手の形がわからず、アドバイスをしていない。 |
| | 4 | ◇たくさん点を取るためのボールの打ち方をみつける。 | 点を取るためのボールの打ち方について、コツを見つけ、アドバイスをしようとしている。 | 体育ノート 発言 | ボールを打つための体の捻り方がわかり、相手の課題にあったアドバイスをしている。 | ボールを打つための体の捻り方はわかるが、相手の課題にあったアドバイスをしていない。 | ボールを打つための体の捻り方がわからず、アドバイスをしていない。 |
| | 5 | ◇たくさん点を取るためのボールの投げ方をみつける。 | 点を取るためのボールの投げ方について、コツを見つけ、アドバイスをしようとしている。 | 体育ノート 発言 | 遠くへ投げるための体の捻り方がわかり、相手の課題にあったアドバイスをしている。 | 遠くへ投げるための体の捻り方はわかるが、相手の課題にあったアドバイスをしていない。 | 遠くへ投げるための体の捻り方がわからず、アドバイスをしていない。 |

5 本時の学習

(1)ねらい

ひじやつま先を中心に動きを見合いながら、ボールを遠くへ投げる方法に気づいたり、考えたりすることができる。

(2)展 開

| 学習場面と子どもの取り組み | 教師の支援と願い・評価 (◎は学び合いのためのはたらきかけ) |
|--|--|
| <p>1. 前時の活動をふりかえりカキーンの得点を出す。</p> <p>2. 本時のめあてを知る。</p> | <p>・カキーンのコツをふりかえり，打って遠くへ飛ばすための方法を考える。</p> |
| <p>ビューンでもっと遠くへ投げるコツをみつけよう。</p> | |
| <p>3. ビューンで投球動作を行いながら遠くへ投げるコツをみつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠くへ投げている子はひじのゲッターマークが見えるぞ。 ・遠くへ投げている子は足を前にふみだしているぞ。 ・〇〇くんのまねをして投げてみよう。 ・カキーンのとときとコツが少し似ているぞ。 ・わたしはなんで遠くへ投げられないのかな。 <p>4. 一度集まって遠くに投げている子の動きを見て，そのコツについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひじをひくと遠くへ投げられそうだ。 ・足をふみだすと遠くへ投げられそうだ。 ・体は横向きがいい。 <p>5. 見つけたコツをもとに練習し，今日の得点を出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしはどこができていないか見てほしいな。 ・〇〇くんはひじのゲッターマークが見えるようにアドバイスをしよう。 ・もっと遠くへ投げる方法はないかな。 <p>6. ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コツがわかって試してみたら遠くに投げることができた。 ・足と手のタイミングが合えばもっと遠くに投げられそうだ。 ・まだできていないけれど自分の課題がわかってきた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・視点を焦点化するために，ゲッターマークを（肘付近，つま先）つけるようにする。 ・コツをみつけることができるように，仲間の動きがみやすい場所から見られるようにする。 ◎チームごとの話し合いでは，ゲッターマークに視点が向いているか子どもたちの様子を見て，動きや気づきをとらえておく。 ・遠くへ投げられているときの動きに注目させ，どのようなコツがあるのか見つけられるようにする。 ◎遠くへ投げている子は，どのような投げ方になっているのか，遠くへ投げられない状況と比べながら考えられるようにする。 ・見つけたコツが具体的になったり，深まったりするように視点（肘，つま先）をもとに考えを引き出す。 ・コツを意識した動きをしていたり，相手に必要なアドバイスをしたりしている姿をほめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">— 評価の観点（思考・表現） —</p> <p style="text-align: center;">点を取るためのボールの投げ方について，コツを見つけ，アドバイスをしようとしている。</p> <p style="text-align: right;">【評価方法 体育ノート 発言】</p> <p><支援></p> <p style="text-align: center;">ゲッターマークを中心に，視点をもたせながらお互いの動きを見合うことで，課題に沿ったアドバイスをすることができるように声をかける。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・記録の伸びとともに，遠くへ投げる方法や感覚，アドバイスをもとにふりかえる。 ・投げた後の捕球でさらに得点を取ることができるように意欲を高め，次時の活動につなげる。 |